

完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 宮崎市橘通東1丁目9番10号  
管理機関名 宮崎県教育委員会  
代表者名 教育長 黒木 淳一郎

令和3年度マイスター・ハイスクール事業に係る完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年6月23日(契約締結日)～令和4年3月31日

2 管理機関

①管理機関(市区町村・都道府県)

ふりがな	のべおかし
管理機関名	延岡市
代表者職名	市長
代表者職名	読谷山 洋司

②管理機関(産業界)

ふりがな	いっばんしゃだんほうじんみやざきけんこうぎょうかい
管理機関名	一般社団法人宮崎県工業会
代表者職名	会長
代表者氏名	濱井 研史

③管理機関(学校設置者)

ふりがな	みやざきけんきょういくいいんかい
管理機関名	宮崎県教育委員会
代表者職名	教育長
代表者職名	黒木 淳一郎

3 指定校名

学校名 宮崎県立延岡工業高等学校  
学校長名 安楽 耕三

4 事業名 ひむか未来マイスター・ハイスクール事業

## 5 事業概要

I o TやA Iなどのデジタル技術を活用した付加価値の高い商品開発やビジネスモデル変革を目指すこれからの地域産業界を担う高校段階での人材育成として、「ICTを活用したものづくり」に力点を置いたカリキュラム開発からスタートする。延岡工業高校に設置されている各学科の実習環境を含めた教育の現状や地域産業界連携組織（宮崎県工業会県北地区部会及び延岡鉄工団地協同組合（重複除き延べ106社））の特徴を考慮し、機械科における実習内容の充実から着手する。長期的なスキームとしては、学校、地域産業界、地元自治体それぞれの立場からの当事業へのニーズ調査を行い、機械科以外での取組についても検討を行っていくこととする。

## 6 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

・学校設定教科・科目	開設している	・	開設していない
・教育課程の特例の活用	活用している	・	活用していない

## 7 意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
吉玉 典生	宮崎県工業会・副会長 （宮崎県工業会県北地区部会・会長 吉玉精鍍 株式会社・代表取締役社長）
島原 俊英	宮崎県工業会県北地区部会 人材育成分科会・会長 （株式会社 MFE HIMUKA・代表取締役社長）
黒木 保善	延岡鉄工団地協同組合・理事長 （株式会社 昭和・代表取締役社長）
読谷山 洋司	宮崎県延岡市・市長
水永 正憲	延岡市キャリア教育支援センター・センター長（元旭化成 株式会社延岡支社長） 延岡市工業振興ビジョン推進コンダクター
黒木 淳一郎	宮崎県教育委員会・教育長
安楽 耕三	宮崎県立延岡工業高等学校・校長

## 8 事業推進機関の体制（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
元永 辰也	マイスター・ハイスクールCEO 旭化成 株式会社 延岡支社延岡総務部地域活性化推進グループ長
〈調整中〉	産業実務家教員
山本 卓也	宮崎県工業会・専務理事
金丸 正一	宮崎県工業会県北分室・専門員
柳田 淳	宮崎県工業会県北地区部会人材育成分科会・副会長
水永 正憲	延岡市工業振興ビジョン推進コンダクター 延岡市キャリア教育支援センター・センター長
河野 修	延岡市商工観光部工業振興課・課長
伊東 洋之	延岡市教育委員会学校支援対策監

黒木 公俊	宮崎県商工観光労働部企業振興課工業・情報産業振興担当・副主幹
谷口 彰規	宮崎県教育庁高校教育課・課長
安楽 耕三	宮崎県立延岡工業高等学校・校長
松浦 宗孝	宮崎県立延岡工業高等学校・教頭
古川 敦弘	宮崎県立延岡工業高等学校・当事業主担当者・当該学科主任

## 9 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施期間（令和3年6月1日～4年3月31日）									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
○ 実習内容の見直し	→									
○ 産業実務家教員からの技術指導										→
○ 企業での実習						→				
○ 次年度に向けた年間計画の作成					→					
○ エンL a bの環境整備					→					

### (2) 実績の説明

管理機関としてマイスター・ハイスクール運営委員会及び事業推進委員会を設置し、会の開催を重ねながら事業全体の運営を行う。運営委員会開催に際しては、宮崎県教育庁高校教育課（代表管理機関）内の工業科担当指導主事が他の管理機関やマイスター・ハイスクールCEO、学校等から現状や課題などに係る情報収集を丁寧に行い、運営委員会の議題設定等を適切に行い、効果的な協議に繋げることで、計画以上の成果が得られるよう支援する。また、当事業実行の中心を担うCEOと県教育委員会との意見交換の機会を定期的にもつこととしている。管理者は地方自治体・産業界・学校設置者で構成されるため、関係する事業も活用しつつ、本事業の進行が図られている。人材育成の視点では、これまでも様々な取り組みが重ねられており、本事業において、企業の変革の方向性やどんな人材が必要となっていくのかということについて、議論と検討が深められている。継続的な取組を行うため、人事面においては、当該学科担当の継続的な配置、事業終了後を見据えた連携の充実化へのポイント整理など積極的に実施されている。

## 10 事業の実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程										
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
○ 実習内容の見直し		運営委員会			①※	①※	①※		運営委員会		
○ 産業実務家教員からの技術指導					事業推進委員会	②※	②※	②※		事業推進委員会	
○ 企業での実習						③		③※			
○ 次年度に向けた年間計画の作成					④	④	④	④		④	④
○ エンL a bの環境整備				⑤※		⑤	⑤	⑤※		⑤	⑤

## (2) 実績の説明

業務項目について①～⑤の設定を行いながら進めており、①※では、「次世代地域産業人材像」策定にかかる検討会が活用されている。②※では、延岡鉄工団地協同組合、延岡工業高校と様々なキャリア教育および生徒就職と関係の深い企業、県工業会県北支部と産業実務家教員配置について協議を実施している。⑤※では、小学生向けの工作教室、工業教育フェアワークショップ（県工業会テクノフェアと共催）を行うなど、生徒の活動範囲を広げている。また、最先端の職業人材育成に資するカリキュラム開発等は機械科の実習を利用して進めており、学校全体の事業実施体制については、マイスター・ハイスクールCEO、校内事業推進委員会として、マイスター・ハイスクールCEO、教頭、教務主任、工業部理事、当該学科主任（当事業主担当）（機械科）、当該学科実習教師1名（機械科）を配置している。※工業部理事とは工業系学科主任の代表である。

### 1.1 目標の進捗状況、成果、評価

- (1) 本事業の実施により、企業や地元行政と今まで以上に連携を図ることができた。また、学校内の教育活動に対して意見をいただく機会が増えた。
- (2) マイスター・ハイスクールCEOは年度当初より事業に参画していただき、学校に足を運んで、先生方と意見交換を図っているところである。企業の方から見た教育活動へ忌憚のない意見をいただいている。
- (3) 各種検定の受検に向けて、現在、ICT活用の現状、地元企業の得意としている分野をお伺いしている。実現に向け事業にフィードバックをしていきたい。また、これまで取り組んでいない「CAD検定」は今年度の施設整備により、実現に向けた機器導入を進めている。
- (4) エンL a b運用を見据えた装置導入が進んでおり、今年度内に実習室環境が整うことから、実習室を利用した活動にも検討を広げる。
- (5) 小学生向けの工作教室、ワークショップ（工業教育フェア）の実施では、生徒の主体的な活動、ICT活用による技術支援やエンL a bにおける開かれた環境への手応えを得ることができた。

## 1 2 次年度以降の課題及び改善点

- (1) コロナ禍の中、委員会の実施が困難を極めているため、オンラインを活用しながら進める必要がある。他にも生徒の企業現場での活動、企業への生産活動への影響、新たな事業への転換にエネルギーが必要となっている状況もある。
- (2) 本業とのかねあいもあり、実務家教員の選定に苦勞している。年度内に関係団体と連携を図り、次年度の依頼の目途を立てることができた。
- (3) 地元就職率3年後目標値60%と設定しており、今年度実績は56.3%（昨年度は50%）。
- (4) 企業についてのニーズ調査は多岐に渡っているため、教職員のニーズ調査を行うことで、企業や地元自治体、学校が求める生徒像を明確にし、今後のカリキュラム構築に反映していきたい。